

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成 23 年 3 月 24 日 (2011.3.24)

【公表番号】特表 2008-541140 (P2008-541140A)

【公表日】平成 20 年 11 月 20 日 (2008.11.20)

【年通号数】公開・登録公報 2008-046

【出願番号】特願 2008-524605 (P2008-524605)

【国際特許分類】

G 0 4 B 21/08 (2006.01)

【 F I 】

G 0 4 B 21/08 B

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 23 年 2 月 4 日 (2011.2.4)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

時計ムーブメント用音楽モジュールであって、

前記モジュールが、パレル (11) と、ピン (12) を有する回転ディスク (5) と、前記ディスク (5) が回転すると、前記ディスク (5) の前記ピン (12) によって作用し得るいくつかの歯を有するコーム (13) と、前記回転ディスク (5) を回転させるための駆動装置 (6、14a、15) と、前記ディスク (5) の一定の回転を維持するよう設計された調節システム (7、8、9、10) とを備え、

前記モジュールが、いくつかののこぎり状回転ディスク (5) が周囲に配置された、中央のアーバ (3) を有する回転ラック (1) も備え、

前記駆動装置 (6、14a、15) が、一方では前記のこぎり状ディスク (5) を回転させるよう、かつ他方では前記ディスク (5) を前記コーム (13) の上に次々に位置決めするように前記回転ラック (1) の回転を起動するよう動作でき、

前記調節システム (7、8、9、10) が、前記ディスク (5) の一定の回転を維持することを特徴とする音楽モジュール。

【請求項 2】

前記調整システム (7、8、9、10) が、慣性はずみ車 (10) と共に動く歯車列 (7、8、9) から構成されることを特徴とする請求項 1 に記載の音楽モジュール。

【請求項 3】

それぞれののこぎり状回転ディスク (5) が、その円周全体に渡って歯部を備えることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の音楽モジュール。

【請求項 4】

それぞれののこぎり状ディスク (5) が、その円周全体に渡って歯部を備えるとともに、前記回転ラック (1) の前記中央のアーバ (3) 上の動きばめであるピニオン (6) に噛み合うよう設計され、

前記ピニオン (6) が、前記パレル (11) 及び前記歯車列 (7、8、9) の 歯車 (7) に係合されることを特徴とする 請求項 2 に記載の音楽モジュール。

【請求項 5】

前記歯車 (7) に固定され、かつ前記歯車 (7) が一回転した際に前記回転ラック (1) をゼネバ機構 (15) を介して回転させる回転部材 (14) を備えることを特徴とする

請求項 4 に記載の音楽モジュール。

【請求項 6】

4 つののこぎり状ディスク (5) が、前記回転ラック (1) の前記中央のアーバ (3) に固定された 4 つの各アーム (2) 上に取り付けられ、

前記アーム (2) が、互いに対して 90° に放射状に配置され、

前記ゼネバ機構 (15) が、前記回転部材 (14) によって駆動された場合に前記回転ラック (1) を 90° 回転させるよう前記中央のアーバ (3) 上に取り付けられることを特徴とする請求項 5 に記載の音楽モジュール。

【請求項 7】

前記回転部材 (14) が、前記回転ラック (1) の回転を起動するよう設計された歯部 (14 a) を備えることを特徴とする請求項 5 又は 6 に記載の音楽モジュール。

【請求項 8】

前記歯車 (7) のピッチ円が、前記のこぎり状ディスク (5) のピッチ円とほぼ同じであり、したがって、前記コーム (13) の上に位置決めされた前記のこぎり状ディスク (5) が完全に 1 回転した後にのみ、前記歯部 (14 a) が前記回転ラック (1) を回転させることを特徴とする請求項 7 に記載の音楽モジュール。

【請求項 9】

前記制御装置 (6、14 a、15) が、前記回転ラック (1) を固締するための固締レバー (16) と、前記はずみ車 (10) を固締するための止めレバー (17) とをさらに備え、

これらの 2 つのレバー (16、17) は、前記回転ラック (1) 及び前記はずみ車 (10) を解放し、それにより、前記歯車列 (7、8、9) 及び前記バレル (11) によって直ちに駆動される前記中心のピニオン (6) を解除するために、ロッカー (21) により動作可能であり、

前記ピニオン (6) が解放されると同時に、前記ピニオン (6) が前記のこぎり状ディスク (5) を駆動することを特徴とする請求項 4 ~ 8 のいずれか一項に記載の音楽モジュール。

【請求項 10】

それぞれののこぎり状ディスク (5) の区域 (23) には、定位置へと動く間に前記ピン (12) が前記コームの前記歯に当たることなく、前記のこぎり状ディスク (5) を次々に前記コーム (13) の上に位置決めできるようにするためのピン (12) がないことを特徴とする請求項 1 ~ 9 のいずれか一項に記載の音楽モジュール。

【請求項 11】

前記回転部材 (14) が、環状の溝 (18) を有し、

その溝 (18) の内壁が、前記固締レバー (16) 上の第 1 の止めピン (16 a) を通じて前記回転ラック (1) を固締するための突出部 (19) を有し、

固締レバー (16) が、音楽ディスク (5) が再生されている間、前記回転ラック (1) を安定した位置に保つよう設計されたレバー (22) を操作することができ、

前記溝 (18) の外壁が、刻み目 (20) を有し、

この中に、止めレバー (17) 上の第 2 の止めピン (17 a) が位置決めされ、

前記制御システム (16、17、21) の前記ロッカー (21) により、前記システムが操作されると、一方では、前記レバー (22) を外すよう、したがって前記回転ラック (1) を解放するよう、前記第 1 のピン (16 a) を前記突出部 (19) から外し、他方では、前記はずみ車 (10) を解放するよう前記第 2 のピン (17 a) を前記刻み目 (20) から外すことができ、

前記歯部 (14 a) が完全に 1 回転し、約 $360^{\circ}/N$ (ここで、 N とは、前記回転ラック (1) によって運ばれるのこぎり状ディスク (5) の数である) の角度で前記回転ラック (1) を回転させた後、前記止めピン (16 a、17 a) が戻って、それぞれ、前記突出部 (19) と接触し、前記刻み目 (20) 内に入ると直ぐに、前記音楽モジュールが停止することを特徴とする請求項 9 に記載の音楽モジュール。

【請求項 12】

請求項 1 ~ 11 のいずれか一項に記載の音楽モジュールを備えた時計。

【請求項 13】

前記音楽モジュールが、ロッカー(25)にロッカー(25)の一方の先端に中心軸が位置するように取り付けられた歯車(24)を備え、

さらに前記時計がリユーズを有し、前記リユーズが時計回りに回転して、前記歯車(24)が前記リユーズに形成された第1のピニオン(27)及び中間ピニオン(28)を介して駆動されると、前記歯車(24)が、前記パレル(11)のゼンマイを巻き上げるよう設計されることを特徴とする請求項12に記載の時計。

【請求項 14】

前記リユーズが逆時計回りに回転すると、前記リユーズに形成された第2のピニオン(29)が、時計ムーブメントのゼンマイを巻き上げるよう設計されることを特徴とする請求項13に記載の時計。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0007

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0007】

本発明の主要な実施形態においては、音楽モジュールは、中心軸(3)の周囲に配置された4つのアーム(2)を有する回転ラック(1)を備える。その端部近くに、それぞれのアーム(2)が、4つののこぎり状音楽ディスク(5)の1つが取り付けられた軸(4)を有する。中心のピニオン(6)が、一方では4つの音楽ディスク(5)を同時に、他方では慣性はずみ車(10)と共に動く歯車列(7、8、9)の歯車(7)を駆動できるようにするために、回転ラック(1)の中心軸(3)に、遊びを有して取り付けられる。歯車列(7、8、9)及び慣性はずみ車(10)は、音楽モジュール(図2)の調整システムを構成する。中心のピニオン(6)は、パレル(11)により駆動可能である。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0009

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0009】

音楽モジュールは、ディスク(5)の回転及び90°の回転ラック(1)の回転の両方を起動するための制御装置を備える。このため、歯部(14a)を有する回転部材(14)が、歯車列(7、8、9)の歯車(7)に固定され、歯部(14a)は、回転ラック(1)の中心軸(3)に取り付けられたゼネバ機構(15)を駆動するよう配置される。音楽ディスク(5)のピッチ円は、歯車(7)のピッチ円と同一であり、したがって、コーム(13)の上に位置決めされたディスク(5)が1回転終了して、曲が終わった場合にのみ、回転ラック(1)の回転が歯部(14a)によって起動される。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0016

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0016】

音楽モジュールはまた、ロッカー(25)にロッカー(25)の一方の先端に中心軸が位置するように取り付けられた歯車(24)(図2)を有し、前記歯車(24)は、リユーズ(図示せず)が時計回りに回転すると、パレル(11)のつめ車(26)を巻き上げるよう設計される。この時、歯車(24)は、リユーズに形成された第1のピニオン(2

7) 及び中間ピニオン (2 8) を介して駆動される。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 7】

リ्यूズに形成された第 2 のピニオン (2 9) は、リ्यूズが逆時計回りに回転すると、時計ムーブメントのゼンマイを巻き上げるよう設計される。

【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 8】

時計は、時刻設定ボタン (図示せず) を押した状態で、リ्यूズを回転させることによって、正しい時刻に設定することができる。この時間設定ボタンは 1 組のロッカー (3 0 、 3 1 、 3 2 、 3 3 、 2 5 、 3 5) (図 3) を通じて作用するものであって、一方では音楽モジュールのゼンマイが巻かれるのを防止するようロッカー (2 5) を操作して歯車 (2 4) とつめ車 (2 6) との噛合を解除し、他方では時間を設定するために時計ムーブメントに作用するロッカー (3 5) を操作する。